（２）県立八戸北高等学校

ふるさとチャレンジ
～未来へのＵターン大作戦～

政策を考えた県立八戸北高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！

より青森のことを知る良い経験を積むことができました。

石戸　晴道（２学年）

青森を知り、課題を見つけ対策を考えることで、自分の住む地域に興味を持つことができました。

楠本　舞弥（２学年）

発表準備の際、メンバーとのブレインストーミングを通じて、問題点とアイデアを出し合ったことが、とても印象的でした。

小堀　彩羽（２学年）

約4ヶ月の高校生模擬議会を通じて、青森県についてまだ知らなかった発見や課題などを見つけることができました。
これからも、県の取組などを調べていこうと思いました。

榊　俊太郎（２学年）

菅間　妃由（２学年）

青森県の課題を考え、自分たちにできることや対策の案を出すという新しい経験をすることができました。

田中　陽（２学年）

今回の活動を通して、青森県の人口減少問題について知り、当事者意識を持つことができました。模擬議会の活動は終わりますが、これからも青森県のために何ができるか考えていきたいです。

寅谷　綾人（２学年）

僕は、この活動を通して普段考えることのない青森県が抱えている問題について考えることができました。

自分の故郷である青森県の人口流出の対策に貢献していくのは、自分たち若者の役割でもあると感じました。

中村　美友（２学年）

この高校生模擬議会の準備をする中で、真剣に青森県の人口の課題について考えることができました。

良い機会をもらえて良かったです。

青森がより盛り上がるといいと思いました。ありがとうございました。

西川　竜毅（２学年）

模擬議会の活動を通して、青森の“今”を知り、考える良い機会になりました。
今後は自分の生活を通じて、青森を考えていきたいと思います。

濱谷　歩香（２学年）

青森県の現状を知り、地元を一から見つめ直すことができる良い機会でした。
最高の気分です。

平浜　百華（２学年）

今回の活動を通じて、青森県の現状を知り、身近に感じることができました。
人口減少という大きな課題に対する実行可能な解決策を考えるのは難しかったけれど、県が行っている取組を知り、政治に参加することの大切さを感じたので、積極的に政治参加をしようと思います。

福井　明日果（２学年）

増山（ますやま）　春莉（はるり）（２学年）

ブレインストーミングを通して、仲間と協力して物事を考える楽しさを学びました。

青森県高校生模擬議会に参加して

県立八戸北高等学校

川原　裕

本校では、２年次の総合的な探究の時間の研究分野で１３名の生徒を選抜し、グループワークと模擬議会に参加しました。９月にグループワークを行い、グループワークの進め方を藤井先生から指導していただきました。自分の研究に近い分野で３つのグループに分かれて、それぞれアイデアを出し合い、ＫＪ法で模擬議会でのプレゼンテーションテーマを絞り込もうと当初はこちらで考えていたのですが、３つのグループの全てに話し合いの発展性が感じられ、グループワーク後のテーマ絞りに難儀しました。

「ふるさとチャレンジ～未来へのＵターン大作戦～」とテーマを設定し、自分たちもいずれその対象となることを踏まえながら、自分事としてどう青森県に若者を呼び戻すかを議論しました。他県での先行事例がないかを調査しながら、青森県にカスタマイズした作戦を自分たちで考え、実現可能性が少しでも高くなるように心がけました。各種データを基にしながら説得力のあるプレゼンをすることを意識し、自分たちで原稿を考えることで、生徒たちは今後生きる上で必要なスキルを身に付けられたと感じます。また、模擬議会後の振り返りでは、県議会議員や他校生との質問や意見交換を通して多様な考え方を吸収でき、生徒の視野が広がったと感じます。

今後は、２年次での探究を３年次でも継続し、今回学んだことを反映させながら社会の諸問題の解決に少しでも貢献できることを生徒に期待したいと思います。このような貴重な機会を提供してくださり、藤井先生、県議会議員の方々、県選挙管理委員会事務局の方々ならびに関係者各位に心からお礼申し上げます。

県立八戸北高等学校の発表を始めます。

私たちは、青森県の人口減少を改善する施策として、２０代の若者を対象に地元へのＵターンと地元での就職をアピールする活動「ふるさとチャレンジ」、略して「ふるチャレ」を提案します。

これらのグラフからも分かるとおり、青森県の総人口はここ３０年で大幅に減少しています。

死亡数の増加、出生数の減少による自然減も多くなっていますが、私たちは転出などによる社会減の多さに注目しました。

左側の棒グラフは年齢階級別純移動数のグラフとなっており、どの世代がどのくらい転出しているかを表したものになります。これを見ると２０１０年から２０２２年にかけて、１５～２４歳の若い世代の転出の割合が大部分を占めていることがわかります。

右側の円グラフは、どこに転出しているかを表したものになっています。主な転出先といたしましては、１位が東京都、２位が宮城県、３位が神奈川県となっており、都市部が多くを占め、若者の多くが進学や就職のために青森県を離れてしまっていることが分かりました。また、進学・就職で大都市に行き、そのまま住み着いて、地元に戻らない若者がほとんどであることも分かりました。（3）

左側のグラフは、若者の転職に関する意識調査の結果を示したものです。このグラフから、転職に否定的な回答は１７．３％と低いことがわかります。そして、右側のグラフは、入社３年以内の離職率を表したものになります。ここからも分かるとおり、全体の３０～４０％が離職をしていることがわかります。

これらのことから、若者は職に対して流動的であり、就職してからも、自分の能力や適性にあった職を探し続ける傾向が強いことがわかりました。（4）

一方、県内の企業の現状として、従業員不足であると回答した企業は全体の６４％にのぼります。

その主な原因としては、①就労者の就業意識の変化、②規制・制度の影響、③コロナ禍からの経済活動の持ち直しを受けた労働需要の高まり、④デジタル分野などの専門ニーズの高まりなどがあげられています。

青森県民の就職の現状は、①情報量や給与など目につきやすい要素で大都市の企業への就職を選択したり、②年齢を重ね、生活で重視する要素が変化しても、惰性で大都市に定着してしまう傾向が強いことが分かりました。しかし、このような状況では、高所得でも自由な時間がないと感じている人も一定数いるようです。

そこで、職の流動性が高い若年のうちにＵターンをアピールすることで、就職や離転職、結婚などの節目でＵターンを選択してくれる若者の増加が見込めるのではないかと考えています。

そのために、就活サイト以外での地元の企業情報に接する機会を設け、給料面以外のアピールをすることが重要になると考えました。（6）

このため私たちは、若者にＵターンという新しい選択肢を提供する場として、多くの若者が戻ってくる成人式に注目しました。このスライドは、先日行われた八戸市の成人式の概要です。毎年平均して約２，０００人の成人が出席しています。ご覧の通り、現在の成人式では、国歌斉唱や誓いの言葉など形式的なものが多く、若者にとって少し物足りないように思えます。

これらの分析を踏まえた具体的な施策として、これまでの２０歳の成人式に、Ｕターンや地元就職をＰＲするスペースを設置するほか、その後に２５～２７歳を対象とした二度目の成人式を開催することを提案します。

内容としまして、若者のＵターンや地元就職を応援する企業を青森県が「ふるチャレサポーター」として任命します。

２０歳の成人式では、「ふるチャレサポーター」による就職相談ブースを設置します。また、そのほかにも、魅力的な地元の生活をイメージした宣伝ムービーを流したり、お得な情報が配信される「ふるチャレアプリ」に登録してもらうことを考えています。（9）

ここでは、２５歳～２７歳を対象とした二度目の成人式の概要を説明します。

２５～２７歳の世代は、人生の岐路に立つ世代だと考えています。その世代を対象に二度目の成人式である「ふるチャレミーティング」を開催します。

人生の岐路に立つ若者に、地元で働くことや暮らすことをＰＲし、現実的に考えてもらうことを目的とします。

また、青森県内各地での実施を想定し、県内のホテルや市民会館の利用を考えています。（10）

ふるチャレミーティングの内容としては、１つ目は、「ふるチャレサポーター」のブースを設置し、就職・転職相談の実施。２つ目は、さまざまな出会いの場を創出する会食の実施となります。なお、この会食には、県職員の方や企業の方々にも出席してもらうことで縦のつながりを、同世代や同じ考えを持つ人たちを「ふるチャレクルー」として横のつながりを作ることができるのではないかと考えています。

３つ目は、Ｕターン就職経験者との座談会などの実施も考えています。（11）

このような取組を行うことで、長期的にＵターン就職や地元就職を希望する人たちとつながることができます。（12）

２０歳の成人式では、就職活動目前の大学生、離職の可能性のある高卒就職者に対し、地元企業の紹介や「ふるチャレアプリ」への登録を通して、ライフステージに合わせた求人やインターン、経済的支援などの情報提供を行うことができます。

また、２５歳前後の若者に対しては、人生の岐路に立つ大切な時期に「ふるチャレアプリ」を通じ、Ｕターン就職や地元就職の情報提供をすることで、地元に戻ってくる人や地元に定着する人が増え、結果として、青森県の人口増加につながるのではないかと考えます。（12）

以上で県立八戸北高等学校の提案を終わります。御清聴ありがとうございました。

質　疑（質問者：県議会議員、答弁者：県立八戸北高等学校）

●木明（きみょう）　和人（かずひと）　議員（自由民主党）

（木明議員）

本県の大きな問題である人口減少、その大きな要因である人口流出。その点に視点を当てた大変興味深いお話をいただきました。誠にありがとうございます。

そこでお伺いします。職の流動性が高い若年のうちにＵターンをＰＲし、大都市圏から若者を移住させるというアイディアは大変興味深く、面白いと思いました。しかし、職の流動性が高いからこそ、再び青森県を離れてしまうリスクもあります。この点、青森県にＵターンしてきた若者が青森県に定着するにはどのような工夫が必要であるか、お伺いいたします。

（答弁）

そのリスクはあると認識していますが、必ずしも高くないと考えています。Ｕターンは他地域からではなく、大都市圏から家族や慣れ親しんだ友人がいる自分の故郷に戻ってくることです。気心知れた人たちとの生活を選んでＵターンしてきた人たちは、そのような環境下で再度大都市圏へ流れてしまう可能性は低いと考えています。

また、工夫を講じるとすれば、ふるチャレミーティングのほかに、ふるチャレクルーによる交流の場をたくさん創出することで､横のつながりを強化し、移住をしてきた人の悩みや不安の解消、青森県で生活する心地よさをアピールすることで、再度の大都市圏への流出を防げるのではないかと考えています。

（木明議員）

ご答弁誠にありがとうございます。非常にタイムリーな話題がございまして、２月１日の地元紙に、本県では転入する人よりも転出する人の数が５，２００人余り多かったという昨年度のデータが出ております。この転出超過を、私達もそうですし、皆さんも一緒になって少なくしていき、転入の方を多くすることができるような魅力ある青森県を作っていきたいと、そのように思っております。

今回、皆さんからいただいたご意見を今後の議員活動の参考にさせていただきたいと、そのように思っております。

本日は誠にありがとうございました。

●大平（おおだいら）　陽子（ようこ）　議員（オール青森）

（大平議員）

皆さんとても柔軟な発想で、人口減少などの問題について分析しまして、どうやったらＵターンにつながるか、人口が増えるかなどについて、しっかりと考えているということがわかりました。

私にも息子がおりまして、２人とも県外の大学に通っていますけれども、卒業後は帰ってこないかもというようなことを言っております。

さて、この事業は、「ふるチャレアプリ」への登録者の数が多いかどうかがＵターン者を増やせるかどうかの成否を握ると考えますが、一度目の成人式でのＰＲのほかに、どのような工夫や取組を行えば、アプリへの登録者数が増えると考えていらっしゃるのか、お伺いいたします。

（答弁）

今の若者は、紙媒体やテレビより、ＳＮＳなどから情報を得ていることが多いと思うので、アプリの登録者数を増やすためには、県のＳＮＳでの積極的な発信や、時には青森県知事のエーチューブを通じて紹介してもらう等が考えられます。

また、ふるチャレサポーターに任命された企業からも、「ふるチャレアプリ」の宣伝を就職相談会などの機会を通じて行ってもらうことで、登録者数が増えるのではないかと考えています。

（大平議員）

ご答弁ありがとうございました。今のご答弁にもありましたように、若い方たちが情報を得る手段は、今の時代ＳＮＳが主流だと思います。私も急いで情報を得るときはエックスを使いますし、ホームページの代わりに使うときはフェイスブックですとか、若い世代向けにはインスタグラムなどを積極的に活用しております。今後、県の最重要課題であります人口減少の問題ですとか、若者の定着について、皆さんのそのような柔軟な発想やご意見、ご提案を取り入れながら、私も一緒に頑張っていきたいと思います。

今日はありがとうございました。

●後藤（ごとう） 清安（せいあん） 議員（参政党）

（後藤議員）

八戸北高等学校の皆さん。この青森県にとって非常に重要かつ緊急の課題に向き合っていただきまして、そして、素晴らしい提案をいただきまして、ありがとうございます。

今日ここに来てくださった皆さんは、本当にいろいろな議論を行い、いろいろな調査をされたと思います。現状分析がデータを元にした非常にリアリティのある分析だと思って聞いておりました。特に、一度県外に出てしまうと、惰性で大都市に定着してしまうところですとか、給料以外のアピールが必要であるというところ、また、２０歳の集いが形式張ったものに留まっているところに着目したことについて、興味深く聞かせていただきました。

さて、皆さんもお調べになったかもしれませんが、青森県には「青森暮らし、青森県移住交流ポータルサイト」というのがあります。ここでも地元企業の紹介とか、実際にUターンをされている方々の実体験を掲載しているのですが、今回、この「ふるチャレアプリ」の提案をしていただきました。これを導入することによって、さらにどんな効果が見込まれると考えていらっしゃるのかお聞きします。

（答弁）

ホームページに情報発信をすると、その人が自分自身でアクセスをしないと情報を得ることができませんが、アプリでは、ユーザーが開いていなくてもリアルタイムで通知を受け取ることができます。

また、Uターンに興味がない人も「ふるチャレアプリ」を登録することで、自分のキャリアを見つめ直したくなった場合に、青森県へのUターンにつながる情報を得ることもできます。

これらのことから、青森県へのUターンに高い反応率が期待できると考えます。

（後藤議員）

答弁ありがとうございました。やはり、きっかけがないといけません。先ほど仰っていたように、惰性で定着してしまい本当は帰りたいという方々、東京にいる青森出身者の若い方々から、「きっかけがない。」とか「情報がない。」という話を聞きますので、こうしたアプリができることで、そのつながり、そして情報にアクセスしやすくなると思いました。

皆さん２年生ということで、来年、再来年には有権者になられると思いますし、そして、これから卒業をして進学や就職で県外に出られる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、皆さん、今回この課題に向き合っていただいたことで、皆さん自身がどんな情報があったり、どんな青森県になったら、一度県外へ出たとしても、またこの故郷で結婚したり、子供を産み育てて、ずっとこの地で暮らしたいかと思ってもらえるかということを考えられたと思います。私たちも一生懸命考えてまいりますし、皆さんも、これから有権者になられますので、さらに一緒に考えていただけたらと期待しております。

質　疑（質問者：県立八戸北高等学校、答弁者：県）

（質問）

私たちは、今回の政策提言を行うにあたって青森県の現状を分析したところ、先ほどご説明したように、県内企業の６４％が従業員不足に陥っているという事実にとても驚きました。このような状況は、仮に受注があっても人手不足のため仕事を断らざるを得なくなるなど、県内企業への悪影響が大きいと考えられます。そこで、質問いたします。青森県では、このような人材確保に苦慮している地元企業に対して、どのような支援を行っていますか。

次に、私たちは、成人式の場に加えて、人生の岐路にある２５歳～２７歳の若者たちが再度地元に集う場「ふるチャレミーティング」を開催し、地元、青森県で働く・暮らすことを考えてもらうことや、人と人のつながりを構築することなどで若者のＵターンの促進を図ろうと考えました。振り返ってみると、青森県に若者を呼び戻すには、単に地元就職をＰＲするだけではなく、さまざまな手法が考えられることに気付くことができました。そこで、お尋ねいたします。現在、青森県では、若者の定着やＵターンの促進向けて、就職ＰＲ以外にどのような取組を進めていますか。

●こども家庭部　若者定着還流促進課

（若者定着還流促進課長代理）

初めに、人材確保に苦慮している地元企業に対する県の支援についてでございます。

労働力人口の減少や物価の高騰などを背景に、県内企業は厳しい経営環境が続いていることから、労働力の確保と生産性の向上の両面から支援していくことが重要です。

このため県では、労働力の確保については、採用活動や職場環境の改善など県内企業が抱える課題に応じて専門家を派遣するとともに、自社の採用サイトの充実に要する経費の助成などを行っています。また、多様な労働力を活用できるように、機会があれば働きたいと考えている女性や高齢者など潜在的な労働力と県内企業のマッチングに取り組んでいます。

生産性の向上については、デジタル技術を活用して、作業工程の自動化などで業務の効率化を図り、人手不足の解消に取り組む県内企業を支援するため、ＤＸ総合窓口を開設して専門家が様々な相談に対応するとともに、デジタル人材の育成やシステムの導入に必要な経費を支援しています。

２点目のご質問、Ｕターンの促進に向けた就職ＰＲ以外の取組についてです。

昨年１０月に東京都で県が開催した移住イベントでは、約２００組が来場し、５００件以上の移住に関する相談がありました。参加者からは「多くの方と直接話ができて、移住に対する関心が高まった」、「実際に移住した方のリアルな話が聞けてよかった」などの感想がありました。このように、移住を促進するためには、実際に移住した方や地域をよく知る住民などとのつながりを作る機会が重要であると考えています。

このため県では、首都圏に移住相談窓口を設置し、相談者に寄り添ったきめ細かなサポートを行

っているほか、青森暮らしの魅力への興味関心を高めるため、地域で就労を実際に体験する機会や地域住民と交流する機会等を設定しています。

このほか、ＬＩＮＥアプリ内に公式アカウント「あおもリターン」を開設して、一旦は県外に出ていつかは戻ってきたいと考えている人などに登録を促し、県内の旬の情報や青森暮らしの魅力を発信することで、県外に住む方々が、本県とつながり続けることができるような取組などを通じて、一人でも多くの方々のＵターンへとつなげていきます。